

津南町説明資料について

令和3年4月20日

桑原津南町長 提出資料



第2回 国・地方脱炭素実現会議 新潟県津南町説明資料

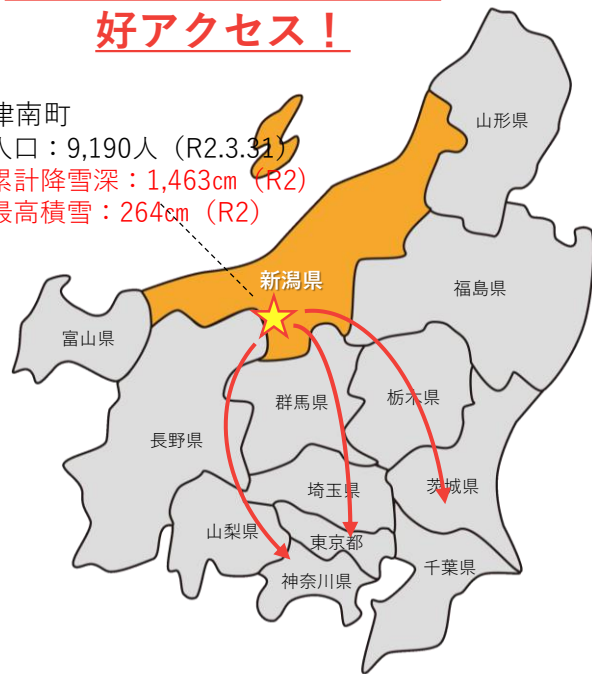
2021年4月20日
津南町長 桑原 悠



農業立町をベースにした津南町

首都圏から3時間圏内と 好アクセス！

津南町
人口：9,190人（R2.3.31）
累計降雪深：1,463cm（R2）
最高積雪：264cm（R2）



上越新幹線（東京～津南町）
関越自動車道（練馬～津南町）

新幹線・車で約135分
車で約225分

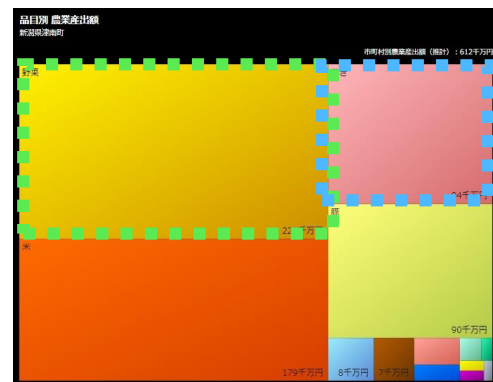
「農を以って立町の基と為す」

町では農業を基幹産業として位置づけ、取り組みを進めている。「みんな雪のおかげ」をスローガンに、縄文時代から雪と共生してきた歴史、文化を観光にも生かすとともに、将来を担う子どもの育成と福祉の推進を基本姿勢としている。

農業後継者・新規参入者の就農率は県内屈指。広大な農地を利用し、大規模経営が図られている。

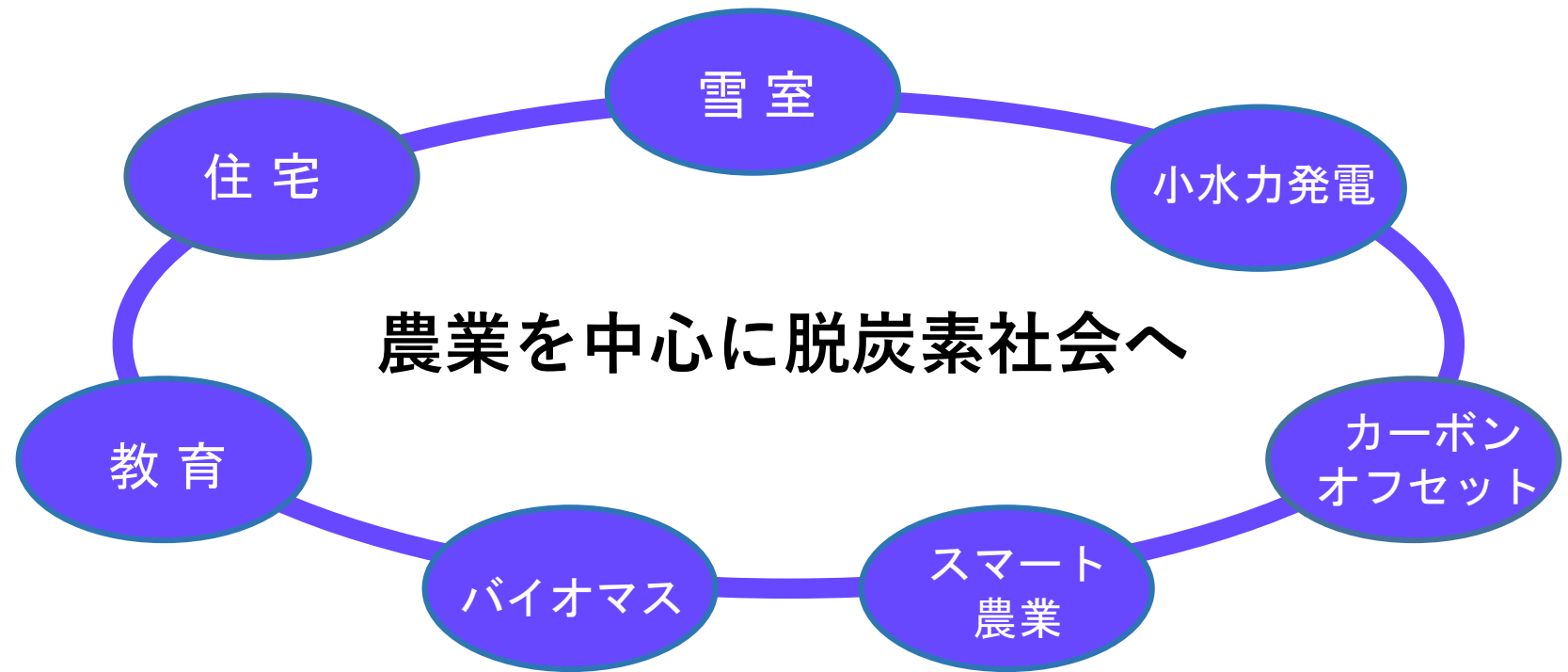
魚沼産コシヒカリ、園芸作物や畜産、林産物が盛ん。

さらなる食糧供給基地として産地形成のため、良質な土地づくり、機械化体系、共販体制等を推進し、安全・安心な食糧生産と供給に取り組んでいる。



米どころ新潟県で野菜・花きも盛んな津南町
出典：RESAS

脱炭素に向けた「現在」の取り組み



脱炭素に向けた「現在」の取り組み

雪室（4施設）

雪室に2月下旬頃から雪を投入し、農産物の貯蔵や集出荷施設として活用。年間を通して施設を冷やすための電気料は不要。電気料は照明のみ。



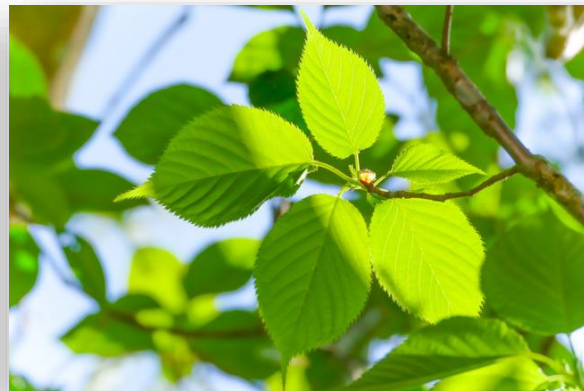
小水力発電所（2施設）

農業用の導水路の落差を活用し、小水力発電を実施。年間発電電量は約270,000キロワット。令和3年度から電力による自治体間連携の検討を開始。



カーボンオフセット

森林整備によるCO2の吸収量を増加させ販売しているカーボンオフセットに取り組んでいる。平成24年度から5,810トン（3,100万円）販売。



脱炭素に向けた「現在」の取り組み

スマート農業

令和2年度から令和3年度、スマート農業実証プロジェクト（農水省事業採択）を開始。ドローンやラジコン除草機などスマート農業機械の導入が加速し、農家の負担を軽減。



バイオマス

堆肥センターから堆肥が供給され、水田や畑地に堆肥を散布。堆肥のほとんどは町内外農家の牛糞や豚糞、下水処理場の汚泥、スーパーなどの残渣など。



教育

地中熱を活用した空調設備を町内保育園へ導入し、脱炭素化を目指す。また、この空調を導入することで新型コロナウイルス感染症の対策も期待できる。



脱炭素に向けた「今後」の取り組み

1 CO2排出削減効果を伝え、農産物の付加価値化

地域ならではの「雪」や「水」などのエネルギーを活用し、農産物の生産・販売過程で発生するCO2の排出削減に向けた取組を推進し、産地のイメージ向上を図る。農業生産において努力しても削減できないCO2排出量を森林整備等によるCO2吸収量に見合ったクレジットで、オフセットする仕組みを併せて検討する。

国等に対して有機農産物、特別栽培農産物と同様な仕組みで、ゼロカーボン農産物等の付加価値化に向けた制度やガイドラインの創設について提案する。

2 「社会に開かれた教育課程」の具現化を支援し、脱炭素社会に向けた人材育成

児童生徒の興味関心×地域の課題を丁寧にマッチングし、脱炭素課題に関心を高めた児童生徒が、地域をフィールドとし、挑戦する大人と関わり、経験を積み上げていけるよう支援が必要。町では県立津南中等教育学校の探究学習、町立小中学校の総合学習や環境教育へさらに支援したい。マッチングの仕組み（コンソーシアムなど）構築が課題。

3 雪国の住宅をZEHに近づけ、健康長寿と環境を両立

雪国の住宅の断熱性能を向上させ、大幅な省エネルギーに取り組むとともに、高齢者のヒートショック対策を図り健康長寿を推進する。雪国でさらなるZEHのための再生可能エネルギー導入のための技術開発が課題。

